

Case 1

今回ご紹介するのは、70代のご入居者さま。

ご自宅では、アルコールの多量摂取により転倒やケガが増え、ご家族との関係も難しい状況にありました。ご入居当初も、被害妄想や悲観的な言動が多くみられました。食事や水分だけでなく、お薬を拒否まれることもあり、精神状態はとても不安定でした。そこで、まず「体調を整える」ことを優先し、水分摂取と活動量について検討しました。

■優先した具体的なケア

水分補給	食後や入浴後に飲みやすい飲み物やゼリーを工夫してご提供。
運 動	スタッフと一緒に、施設内の歩行からスタート。

常にスタッフが寄り添うことで拒否が減り、悲観的な言動も減っていきます。

■フレンドシップケア（友だちケア）の採用

さらに、すべてのスタッフが声かけや会話内容を共有し、「フレンドシップケア」として、外出や昔話などを通じ、ご本人らしさを大切にする関わりを意識しました。現在もご本人の「心に寄り添う」取り組みを続けています。

■役割を持つことで自信に

洗濯物を一緒に干す、片付ける、たたむといった「役割」もお願いしました。スタッフと一緒に楽しみながら行うことで、自信や安心感が芽生えていきました。



■チームで支える安心ケア

一時は便秘や体調不良から、再び不安症状が強まることもありました。ですが、医師との連携により、

- ・服薬の見直し
- ・腸内環境の改善
- ・義歯の調整

を行なったことで体調が整い、再び笑顔は戻り、穏やかに過ごせる時間が増えていきました。

私たちは「ご入居者さまが、自分らしく安心して暮らせる場所」をめざしています。これからも、チームで支え合いながら、一步一步前に進んでまいります。